

摂食嚥下障害リハビリテーション治療学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○飯泉智子 i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp 永見慎輔

【概要】

摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法、評価、治療法を学び、リハビリテーションを実施するための理論的基盤を確立する。また、超高齢社会における日本の低栄養の現状、摂食嚥下障害との関連、摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係についての理解を深める。

【学修目標】

一般目標：摂食嚥下リハビリテーションの評価・介入法について理解する。

行動目標：

1. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法を説明できる。
2. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおけるスクリーニング法を感度と特異度の点からその評価と限界を説明できる。
3. 摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法を説明できる。
4. 摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニアについて説明できる。
5. 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係、介入法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の概要、学習目標、スケジュール、文献検索方法、学習方法について説明する。	飯泉智子 永見慎輔
2~4	摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法	摂食嚥下障害リハビリテーションにおける検査法に関する文献を調べ報告する。 摂食嚥下障害リハビリテーションにおけるスクリーニング法を感度と特異度の点からその評価と限界を学ぶ。	飯泉智子 永見慎輔
5~7	摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法	摂食嚥下障害リハビリテーションにおける治療法に関する文献を調べ報告する。	飯泉智子 永見慎輔
8~10	摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニア	超高齢社会における日本の高齢者における低栄養の状況、摂食嚥下障害と低栄養、フレイル、サルコペニアとの関係、相互作用について学ぶ。	飯泉智子 永見慎輔
11~13	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係、介入法について学ぶ。	飯泉智子 永見慎輔
14・15	まとめ	摂食嚥下障害の包括的リハビリテーションを実施するための理論的基盤を確認する。	飯泉智子 永見慎輔

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

若林秀隆：PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 栄養ケアがリハを変える 第2版 医歯薬出版、2015
才藤栄一、植田耕一郎 監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版、2016
日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 編集：脳卒中治療ガイドライン 協和企画、2015

【学修の準備】

1. 関連する文献、参考書を読み予習しておくこと（80分）。
2. 配布プリント、参考書で復習し理解を深めること（80分）。

【実務経験】

飯泉智子、永見慎輔（言語聴覚士）